

# ジャーナリスト

JAPAN CONGRESS OF JOURNALISTS  
日本ジャーナリスト会議 (JCJ)

〒101-0064 東京都千代田区猿樂町1-4-8 松村ビル401号 電話03-3291-6475 FAX.03-3291-6478  
メールアドレス: jcj@tky.3web.ne.jp URL http://www.jcj.gr.jp

年間購読料3000円(送料込み) 振替 00190-2-76501

THE JOURNALIST

2007.5.25

## 憲法メディアフォーラム 開設2周年記念シンポ

### メディアの言論力を問う

### 護憲論調が確実に拡がる 集団的自衛権の行使は「ノー」

5月12日、東京・飯田橋のしごとセンターで「憲法メディアフォーラム開設2周年記念シンポジウム、メディアの言論力を問う」が開かれた。参加者は80人。

「憲法メディアフォーラム」はMJC(日本マスコミ文化情報労組)とJCJが共同で運用しているサイト。

MJC議長・嵯峨仁朗さんの挨拶、美浦克教前MJC議長の活動報告に続いてパネルディスカッション。JCJ運営委員の丸山重威(関東学院大教授)がコーディネーターとなり、3人のジャーナリストが討論した。

朝日新聞社会部の藤森研さんは、地方紙、全国紙の04年、05年の憲法記事の社説を調べた結果を示し、論調を改憲的と護憲的に振り分ければ、ほぼ3対1で護憲論調が優ることを指摘、追い込まれているメディアは士俵際で踏みとどまっていこうとするなど活発な質問が出された。

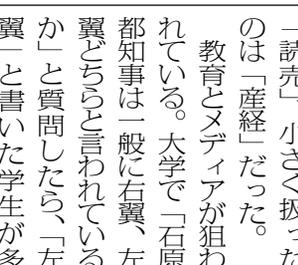
休養後、質問用紙に答える形で質疑。社説を書くときは話し合うのか、若い人たちに語りかけるにはどうするかなど活発な質問が出された。

「今週のことごとく」スタート。更新に合わせてメルマガジンの発行を開始。06年1月1日、大型座談会第1弾「いま、憲法を伝えよう」公開。

9月、大型座談会第2弾「現場記者が見た小泉政治」を公開。アクセスが初めて1万件突破。

07年1月1日、大型座談会第3弾「安倍政権発足とメディア」公開。

4月、サイト発足2年。アクセスは1万件以上で推移。



#### 狙われる教育・メディア

野中章弘さん 卒人学式の君が代強制は違法とした高裁判決を1面トップで報じたのは「東京」と「朝日」、社会面トップは「毎日」、第二社会面では「読売」、小さく扱ったのは「産経」だった。

#### 跡継ぎ育てて力作を

桜井均さん 憲法制定時に九条は天皇を残すために決められた。国民の権利も九条があったからこそ。戦争になればバリアフリーどころではない。マスコミも同じだ。自由が増進した戦争はかつて

### 改憲先取り 許すな

差別・強制・参戦の現場から報告

6月集会、16日(土)に 斎藤貴男氏

十分な議論が尽くされないまま改憲手続き法である「国民投票法」を成立させた安倍政権、7月

の参院選では改憲を最も大きな争点として戦うとしている。

JCJではこの緊迫した状況をどう捉え、6月集会で改憲先取り状況の現在を事実上即して告発していく。題して「検証

『美しい国へ』の260日―進む差別・強制・参戦の現場から。気鋭のジャーナリスト斎藤貴男さんが安倍政権の「改憲」の企てを明らかにするほか、改憲先取り状況の「労働」「教育」「基地」の現場からの生々しい証言で構成する。

今、ジャーナリストが、市民に求められているのは何かを考えていく。お誘い合わせの上ぜひご参加ください。

◆プログラム  
◎問題提起 斎藤貴男  
◎現場からの証言  
・貧困と闘う若者たち 河添誠  
・「日の丸・君が代」強

#### ●コミックJCJ●

江草普二



党主非討論



朝日新聞は論説委員が30人いて、取材などで居ない人を除く20人ほどが毎日会議をして社説項目を決める。執筆の後、担当者が説明する。憲法記念日に一挙掲載した21本の社説は好評だった。

#### 好評だった21本の社説

藤森研さん ほとんどすべての世論調査で憲法改正賛成が過半数を超えたが、九条を守り集団的

安倍政権が進める「美しい国へ」の危険な狙い

検証: 『美しい国へ』の260日  
進む差別・強制・参戦の現場から

# JCJ6月集会

6月16日(土) 午後1時半  
全水道会館 4F (水道橋)  
東京都文京区本郷 141  
☎03-3816-4196  
参加費 1,200円  
予約・JCJ会員 1000円 学生 600円



問題提起  
ジャーナリスト  
斎藤貴男さん

# 記者魂、最期まで

## 岩切信さんを偲ぶ会に180人

### 「只者でない」人柄、口々に

丸テールが並んだ会場の中央には写真と花が飾られ、入り口脇のコー

ナリーには、難波竹一朗さん撮影の写真(3月号2新聞争議やJ・C・J事務局長の時期の岩切さんの活動をjつて東京新聞OGの

4月21日、東京・九段北のアルカディア市ヶ谷で開かれた岩切信さんを偲ぶ会は、しみじみした中にも賑やかさの感じられる会となった。全国から180人が参加、予定を大きくオーバーした。



子息の山口直さん、むつ子さん夫妻、令嬢の岩切幸子さん(写真①)の挨拶の後も多くの人々が岩切さんとの交流とその人柄を語った。J・C・Jの橋本進さんは、「出版労連から徳山へ山口放逐闘争の支援に行ったときに、冷



その昔、「議会は資本家の支配の道具に過ぎないのかどうか」と随分議論した。頭の片隅で「その通りだ」と思いながら、それでも「人間は理性の動物。議論すれば、間違っ

18項目の付帯決議で強行され、イラク特措法延長では世界で唯一「イラク戦争は正しかった」という主張が罷り通った。教育三法での思想統制や免

## 視 角

は権力の道具」という主張への反論は「国民は選んで政権を変えることができる」ということだ。しかしそれも、小選挙区制の中では影が薄い。「自公VS民主」ではなく、憲法を軸に、「自公・民主」に対し「社・共」で対抗軸が作られ、護憲勢力が結集できなければ、それこそ「靖国派」の思うツボだ。「共産党と一緒にやると組織がつぶされる」「社民党は共

# 国会終盤 国民愚弄の法案続々

## 教育・在日米軍再編促進 イラク特措法延長・労働 監視怠るな

国会の会期が1カ月を切った。残されたわずかな期間に、重要法案が目白押しである。

18日に衆議院を通過した教育3法案は、22日の参議院文教科学委員会で

込む学校教育法改定案などの教育3法案は、安倍首相が最重要課題と位置づける憲法改悪の延長線上にある。

案も23日の参院本会議で審議入りする。イラク侵略戦争開戦の理由とされた「大量破壊兵器」はイラクに存在しなかった。しかし、安倍首相はひたすらブッシュ大統領を弁護するだけだ。しかも、航空自衛隊がイラクで何を運んでいるのか、政府は国民に何も説明していない。

除庁解体・民営化法案や最低賃金法改正案などの労働3法案、天下一「自由化」の国家公務員法改正案(以上衆院)など重要法案の審議が踵(きびす)を接している。

産経退職後に就職した亜細亜通信社でも争議が起るが、その時代については、同時に採用された中村梧郎氏(フォトジャーナリスト)などが語った。

義務教育の目標に「規範意識」や「我が国と郷土を愛する態度」を盛り

衆議院の審議では、憲法が保障する思想・良心の自由を侵さないかとの追及に対し、政府は「国による特定の価値観の押しつけではない」との答

参議院でこれらの問題について、どう審議を徹底するか。改憲手続き法同様十分な審議を尽くさないまま自民・公明両党の採決強行を許すなら、教育現場は大混乱をきた

これ以外にも、社会保

末に提出するとしているが、抜け穴だらけの「ザル法」だ。

交で「舊しにひるむのか」と追及した」と、岩切さんの記者魂を引き継ぐ東京新聞労組の伝統を語った。

## 多彩な活動ぶり示す

### 相羽宏紀さんを偲ぶ会

#### 労働運動史と重なる人生

4月28日、東京・千駄ヶ谷の日本青年館で相羽宏紀(ひろもと)さんを偲ぶ会が開かれた。多彩に活動した相羽さんを追悼して、95人が参加した。

最後に、パートナーの吉開那津子氏(作家)が家庭人としての相羽さんを語り閉会した。

丸山重威J・C・J運営委員の司会で会は進行。呼びかけ人を代表して勝又

相羽さんが都立大学在

# 『憲法九条を世界遺産に』はこうして生まれた

## 新書づくりの現場報告

### 出版部会例会

「新書づくりの現場から憲法・平和を考える」と題して『憲法九条を世界遺産に』の出版部会例会が、国民投票法案強行採決（衆院本会議）の翌日の4月14日、東京・神保町の東京堂書店会議室で開かれた。参加は60名。

パネラーは、前・集英社新書編集部部長の鈴木力さんと岩波新書編集長の小田野耕明さん、それに司会の元・講談社現代新書の編集者で、現在、J C J事務局長の守屋龍一さんの3名。

冒頭、守屋さんは爆笑問題の太田光とニューアカデミズムの旗手たる中沢新一の対論『憲法九条を世界遺産に』を、ユニークな一冊として、本の生まれた背景・経緯を聞き、続いて、J C Jで話題になり口コミで宣伝、HPでも紹介したことについて触れながら、斎藤貴男の『ルポ改憲潮流』の刊行意図や位置づけを聞く。

鈴木さんは、自らの多彩な履歴に触れつつ、95年のオウム真理教による地下鉄サリン事件のすさまじい報道の嵐の中で、パッシングを強く受けていた中沢新一と知り合った経緯や、一般的には政治的発言を避けがちな芸能人との対論が可能となった経過、社内でもかなり不評だったタイトルへのこだわりなどについて語り、「『世界遺産に』が生まれた背景を具体的に詳しく話した。

部数30数万部について



小田野耕明・岩波新書編集長（中央）の発言を聞く鈴木力・前集英社新書編集部部長（左）と守屋龍一・J C J事務局長

「誰が書いたか知りませんが」と皮肉をにじませつつ50万部弱という『美しい国へ』との対比で「多いのか少ないのか」との感想を述べる。

小田野さんは、イラク戦争が勃発した04年に編集長となって最初に取り組んだ、岩波新書のリニューアルの位置づけは憲法を支える立憲主義自体が条文「改正」の前に内部から壊されている一を、報告しながら、誕生の経緯を語った。

さらに現在4刷3万部ぐらいの販売部数の内訳（大型書店の調査）を紹介して、30代から40代が一番多いが、各年齢層に広く読まれているという。

新書編集15年の経験に裏打ちされた見事な司会進行によって、2人の編集長のディスカッションは具体的かつ論理的で、その「現場からの報告」は刺激的で、しかも感動

ではなかった。

そのすべてをここに再現したいが、紙数が足りない。近いうちに、いま再建中の出版部会のHPに連載する予定なのでぜひ参照してほしい。

いまの新書ブームをどう見るか。最後に守屋さんは、粗製濫造とまではいわないとしても類似企画が氾濫する状況を踏まえ、「多少の危惧を感じ」と語り、そして、

「として、2人の意見の相違を問うた。

2人の話をいささか乱暴にまとめる、こうなる。ミリオンセラーはごく一部、初版は通常1万部か1万5千部だから「新書ブームは皮相的なもの」としつつ、「読者にとっていろいろな種類のものが出ているという点で、新書ブームはいいことだ」と語る。そして、

最近の「聞き書き」一悪くいえば「しゃべり散らし」ではなく、「本当」にいいもの、問題を鋭くつかまえているものを出していく力が問われているし、「専門書への入り口の役割」を果たす新書づくりでありたい、と交々語り、「少なくとも5年は持つ新書でありたい」と口を揃えた。

（出版部会・小幡時彦）

これはNHKに対する市民運動の影響も少なくないのではないかと述べた。

今回の集会は「放送を語る会」が隔月で開いている「放送フォーラム」を拡大し、より広く市民団体に呼びかけて開催したもので、兵庫、大阪など各地の市民団体からも賛同の声が寄せられた。

今井潤（放送を語る会）

## 政治介入強化許さない

### 放送法「改正」反対で集会

4月21日、渋谷で開かれた「ちょっと待って！放送法「改正」〜NHK受信料義務化・放送への権力介入に反対する市民集会」にはNHKを監視・激励する視聴者コミュニティ（醍醐聡東大教授）、NHK問題京都連絡会（蔵本頼一氏）、J C J（石井長世氏）、マスコミ九条の会（仲楽間卓蔵氏）、放送を語る会（今井潤）が出席した。

醍醐氏は提出された放送法のポイントを説明して、「あるある大事典」に関する再発防止計画の提出命令などは番組制作に行政が介入する恐れがある、NHKの経営委員会の中に監査委員会が新設されることは、監査委員以外の経営委員との間に情報・権限格差が生まされる危険性があり、結局

「これは総務省の権限強化につながると指摘し、今井はこれまでの放送行政を独立行政法人化する必要がある、当面NHKと民放がつくっているBPO（放送倫理・番組向上機構）の機能強化で放送の自主・自立を貫いていくべきだと述べた。

また最近NHK経営委員会の変換があり、E T V裁判の高裁判決に対し、即日告示したNHK当局への批判も出るようになってきている。これまで、

## リレー時評



ジャーナリスト 大谷昭宏

4月8日の統一地方選挙の直前、遊説先から事務所に戻った長崎市長選挙候補の伊藤一長・前長崎市長が凶弾に倒れ、亡くなった。一報を聞いて、1991年、天皇の戦争責任発言をめぐる銃撃され、重傷を負った本島等・元市長のことを思い浮かべたのは、私だけではないだろう。

ただ、あちこち電話で情報を取っているうちに犯人は地元暴力団組員

で、本島元市長のときと違っていてやらの思想的背景がないことがその日のうちにわかってきた。さすが、いわゆる行政対象暴力

それは、後には犯人が別の人物に代筆させたことが判明するのだが、伊藤が明らかにしてきた。選挙は急遽、立候補し、前市長の娘婿が落選、これまた届け出締切直前に出馬を決意したという市職員が当選して決着、

## 暴力許さぬ社会 醸成してきたか

力のひとつで、思想テロのような背景はないことが明らかになってきた。選挙は急遽、立候補した前市長の娘婿が落選、これまた届け出締切直前に出馬を決意したという市職員が当選して決着、

後の5月3日は、朝日新聞阪神支局襲撃事件から20年、そのことに気づいてくれた私のコメントにも反映させたのは、当の朝日新聞だけだった。たとえ行政対象暴力だ

の候補者が政策や己が主張することを訴える、最も重要な言論の場である。言うまでもなく、民主主義を支える根幹はこの選挙の自由と、報道の自由にある。今回の事件はその民主主義の根幹に銃弾が撃ち込まれたとい

ではないか。

卑近な例であり、私的で恐縮だが、時として「あのようにあちこちでコメントしていると、危険な思いをすることもあ

「あちこちでコメントしていると、危険な思いをすることもあ

「あちこちでコメントしていると、危険な思いをすることもあ

「あちこちでコメントしていると、危険な思いをすることもあ

### ◎ホームページから

http://www.jcj.gr.jp  
デモクラシーNOW!  
http://www.democracynow.jp/http://asahinewstar.com/



伊藤力司の



5月6日の決選投票で、フランスは右派与党UMP(国民運動連合)のニコラ・サルコジ候補(52)を新大統領に選んだ。初の女性大統領としての期待を集めた社会党のセゴレーヌ・ロワイヤル候補(53)は健闘したが、12年ぶりの左翼政権奪回

# 九州・携帯基地局撤去もとめる裁判相次ぐ 企業による人体実験を許してはいけない



近年、携帯電話と中継基地局の間で送受信される電磁波に、健康被害の危険が存在するという研究結果が続々と発表されている。例えば、2004年にイスラエルで行われた調査によれば、携帯電話基地局周辺では、それ以外の地域に比べてがん発生率が4・15倍になり、(女性だけに限れば10・5倍)になるといわれる。驚くべき結果が発表されている。

はじめとする携帯電話企業は、中継基地局の乱立を続けており、平気で住宅地のすぐ近くに携帯電話基地局を建設している。そして彼ら携帯電話企業が住民に対して説明する際の決めまりのフレーズは、「国の基準を守っているから安全だ」というものである。

この基準がいかに甘いものであるかは、スイスが日本の140分の1以下、ロシア、ポーランド、ブルガリアが60分の1というように、他国が日本に比べて著しく厳しい基準をとっていることから明らかである。

そもそも、「国の基準を守ってれば安全だ」などという論理が誤っていることは、水俣病、じん肺、薬害エイズ、薬害ヤコブ病といった過去の公害・薬害の歴史を振り返れば明らかである。にもかかわらず、住宅のすぐ近くに携帯電話の中継基地局を乱立させる携帯電話企業の行為は、まさに住民を使って人体実験を行っているに等しい。

わが国は、水俣病で厳しい教訓を得たにもかかわらず、何の反省もすることなく、上記公害、薬害問題に加え、アスベスト問題など、企業による人体実験を許し続けている。このままでは、この国は同じことを繰り返すことになるであろう。

この点、日本のマスメディアは、携帯電話基地局をはじめとする電磁波の危険性についての十分な報道をしていないといえるだろうか。諸外国では常識となっている電磁波の危険性について、日本で認識が不足している原因の一端はマスメディアにあるのではないか。企業による人体実験を許さない国にするためにも、マスメディアには携帯電話基地局・電磁波の危険性に関する正確な情報を報道していただきたい。

また沖縄が、アメリカから日本に返還されていなかった1963年10月に、暴動を起した移住の若者を「社会の屑」と呼び、暴動を力で鎮圧するとともに移住の受け入れを拒否したというべきだろうか。

作者・木下順二は、民藝にこの「沖繩」の上演を許可したあと、06年10月30日に亡くなった。したがって今回の公演は、はしなくも木下順二の追悼公演になった。演出は兒玉庸策。

その島には、元日本兵だった男・山野武吉(杉本孝次)が、島の女けい(中地美佐子)を妻にしてひそかに隠れ住んでいた。山野は、島の製糖会社をヤマトの資本が買収

## 実利の人、サルコジ仏新大統領

減らすことを公約、得票率53%で当選。一方のロワイヤル氏は4人の子の母として、失業青年、移民、女性など社会的弱者を救済する社会福祉の充実を訴え、全左翼を結集する候補になったが、得

する時代に、多数派はサルクジ氏の説く自由競争によるフランス経済の脱皮に賭けたことを意味する。フランス人は20世紀末まで「自由競争」「弱肉強食」のアメリカ流資本主義を「野蛮な資本主

義」と軽蔑していた。欧州は19世紀以来の階級闘争を通じて資本家の横暴を抑え、社会福祉政策によって貧富の差の少ない公正な社会を築き上

その結果失業率も高くなつた。こうした高福祉国家の矛盾を脱却するために、週35時間労働制を破棄して超過勤務手当には税金を免除するという、アメリカ流競争原理に立つサルコジ氏の公約は、84%もの高い投票率を記録した大統領選挙決選投票で受け入れられた。

サルコジ氏は一昨年秋季内相として、失業と差別

から日本に返還されていなかった1963年10月に、暴動を起した移住の若者を「社会の屑」と呼び、暴動を力で鎮圧するとともに移住の受け入れを拒否したというべきだろうか。

作者・木下順二は、民藝にこの「沖繩」の上演を許可したあと、06年10月30日に亡くなった。したがって今回の公演は、はしなくも木下順二の追悼公演になった。演出は兒玉庸策。

その島には、元日本兵だった男・山野武吉(杉本孝次)が、島の女けい(中地美佐子)を妻にしてひそかに隠れ住んでいた。山野は、島の製糖会社をヤマトの資本が買収

うが、「海南島：訴訟」を除き、いずれも敗訴が確定している。今回の判決は「河野談話見直し」の動きと、アメリカ下院での「慰安婦決議」審議と同時期に出たが、マスメディアで日本の戦争責任問題が深められる契機とはなっていない。歴史認識を強調するJCJの一層の活躍が期待される。保坂義久

## 敗訴続く「慰安婦」裁判

4月27日、最高裁で「中国人元慰安婦」損害賠償請求訴訟の敗訴が確定した。どれくらい日本軍性暴力被害者の裁判が提訴されているのか。「下関裁判の判決を生かす会」のサイトにまとめられている。  
<http://www.geocities.jp/ikasukai98/>

太平洋戦争韓国人犠牲者④「海南島戦時性暴力被害」、⑤「フィリピン「従軍慰安婦」⑥「オランダ人捕虜・民間抑留者」⑦「在日の元慰安婦」宋神道さんの謝罪補償請求裁判、⑧「釜山従軍慰安婦・女子挺身隊公式謝罪等請求」。

これら訴訟のそれぞれに被害者の悲痛な思いが込められているのだから、いくつという話を島にもたらず。しかしその頃、島には米軍基地のための新たな土地収用問題が起こり、青年団と村長(安田正利)とが、いがみ合っていた。

豊年祭りの夜、洞窟の開口部から繩にぶら下がって一生懸命にやら作業をしていた山野から、秀は聞き出す。彼は戦争中、沖繩の青年を背後から射殺していたのだ。その青年こそ、秀がひそかに心を寄せていた青年ではなかったのか。

秀は決心する。――どうしてもとり返しのつかないことを、どうしてもとり返すために――。

月明かりに照らされた浜辺では島民たちが乱舞していた。そして彼らは見る。崖から落とされた男の死体と、今また崖から、ひらひらと舞うように落ちてゆく女性の姿を――。(4月7～18日 紀伊國屋サンシアターにて上演) 安住邦男

「中国元慰安婦」損害賠償請求訴訟の敗訴が確定した。どれくらい日本軍性暴力被害者の裁判が提訴されているのか。「下関裁判の判決を生かす会」のサイトにまとめられている。  
<http://www.geocities.jp/ikasukai98/>

太平洋戦争韓国人犠牲者④「海南島戦時性暴力被害」、⑤「フィリピン「従軍慰安婦」⑥「オランダ人捕虜・民間抑留者」⑦「在日の元慰安婦」宋神道さんの謝罪補償請求裁判、⑧「釜山従軍慰安婦・女子挺身隊公式謝罪等請求」。

これら訴訟のそれぞれに被害者の悲痛な思いが込められているのだから、いくつという話を島にもたらず。しかしその頃、島には米軍基地のための新たな土地収用問題が起こり、青年団と村長(安田正利)とが、いがみ合っていた。

豊年祭りの夜、洞窟の開口部から繩にぶら下がって一生懸命にやら作業をしていた山野から、秀は聞き出す。彼は戦争中、沖繩の青年を背後から射殺していたのだ。その青年こそ、秀がひそかに心を寄せていた青年ではなかったのか。

秀は決心する。――どうしてもとり返しのつかないことを、どうしてもとり返すために――。

月明かりに照らされた浜辺では島民たちが乱舞していた。そして彼らは見る。崖から落とされた男の死体と、今また崖から、ひらひらと舞うように落ちてゆく女性の姿を――。(4月7～18日 紀伊國屋サンシアターにて上演) 安住邦男

うが、「海南島：訴訟」を除き、いずれも敗訴が確定している。今回の判決は「河野談話見直し」の動きと、アメリカ下院での「慰安婦決議」審議と同時期に出たが、マスメディアで日本の戦争責任問題が深められる契機とはなっていない。歴史認識を強調するJCJの一層の活躍が期待される。保坂義久



撮影・石川純

## 民藝公演『沖繩』 どうしてもとり返しのつかないことを……

その島には、元日本兵だった男・山野武吉(杉本孝次)が、島の女けい(中地美佐子)を妻にしてひそかに隠れ住んでいた。山野は、島の製糖会社をヤマトの資本が買収

うが、「海南島：訴訟」を除き、いずれも敗訴が確定している。今回の判決は「河野談話見直し」の動きと、アメリカ下院での「慰安婦決議」審議と同時期に出たが、マスメディアで日本の戦争責任問題が深められる契機とはなっていない。歴史認識を強調するJCJの一層の活躍が期待される。保坂義久

市民とジャーナリストを結ぶ

**JCJジャーナリスト**

年間購読は3,000円です。

日本ジャーナリスト会議の月刊誌です。

電話、FAX、Eメール、ハガキでお申し込みください。

〒101-0064 東京都千代田区猿樂町1-4-8松村ビル401  
TEL 03-3291-6475 FAX03-3291-6478  
Eメール jcyj@tky.3web.ne.jp  
日本ジャーナリスト会議

ブッシュのホワイトハウス

# 権力者の不道徳―ブッシュ政権裏面史

ポプ・ウッドワード  
伏見威蕃訳



本書は、パパ・ブッシュが長男を自身につづいて大統領に、と活動をはじめめる1997年秋から2006年6月までの、ホワイトハウスにかかわった政治家たちへの膨大な取材の記録である。

『ブッシュの戦争』『攻撃計画』とあわせて三部作といわれるが、この前二作が特定のテーマに絞られているのに対し、本書はブッシュ政権の裏面通史ともいえるべき力作である。

## 書評

## 本・BOOK・ほん

大量破壊兵器の存在を最大の理由としてはじめられたイラク戦争。だが存在を確認できる証拠など最初からない。

「すべてが喜劇」「誤った想定、過度の楽観、リアリティの欠如」「ワシントン」の権力者



「新聞離れは、読者が新聞を見放したのではなく、新聞が読者から離れたのだ」(地方紙社員)との指摘は、著者ならずともうなずかざるを得ない。

例えば新聞への軽減税率によって増税の危機から逃げようとする姿勢からは、読者は生まれてこない。

新聞社 破綻したビジネスモデル 河内 孝

# 瓦版の原点に立ち返って再生せよ 的確な現状分析に立つ改革案

ライオンに追いつめられて逃げ切れないと、ラクタは砂の中に頭を突っ込む―これが新聞界の現状ではないかと警鐘を鳴らす本書の著者は、元毎日新聞の常務取締役。破綻した部数至上主義

「新聞離れは、読者が新聞を見放したのではなく、新聞が読者から離れたのだ」(地方紙社員)との指摘は、著者ならずともうなずかざるを得ない。

例えば新聞への軽減税率によって増税の危機から逃げようとする姿勢からは、読者は生まれてこない。

この中で「朝日」読者の2紙体制の加速化を予想する著者は、多様な言論を維持するためには、3極目作が必要だと説く。

「新聞離れは、読者が新聞を見放したのではなく、新聞が読者から離れたのだ」(地方紙社員)との指摘は、著者ならずともうなずかざるを得ない。

前進座の3次にわたる中国訪問公演のうち、特にプロレタリア文化大革命的激動期と重なった2次訪中公演の1966年に発生した台本改作の大事件。

露伴の名作『五重塔』

鑑真和上 故国の土を踏む 十島英明

日中文化交流の波瀾と成功の記録 無数のエピソードの放つ天真爛漫

が、似ても似つかぬ図式的なプロパガンダ劇に交えられてしまい、舞台監督を務めた著者は、公演を終えるや即刻、上演台本を火に投じる。

この本を貫く一本の太い筋は、井上靖原作『天平の甕』の中国公演にまつわる。02年5月の国立劇場公演の成功をバネに、ついに03年10月、北京、揚州、上海での中国公演が実現する。サブタイトルは「鑑真東渡」。

「週刊ひとよし」の連載をまとめたものというが、「あちらこちらへの蛇行」ぶりに、なんともいえない味わいがある。

「週刊ひとよし」の連載をまとめたものというが、「あちらこちらへの蛇行」ぶりに、なんともいえない味わいがある。

「普通」の国にな りましよう 『C・ダグラス・ラミス著 大月書店 1200円』

各国国民には、歴史や社会状況によって、思考や行動に一定の傾向があるのは否めない。周囲の眼を気にしがちの日本人は「普通」という言葉に弱いようだ。そこでほとんどどの国は軍隊をもっている、日本も憲法を改正してフツの国になろうという呼びかけは、日本人の心性に浸透しやすい。

訂正

本紙4/25号書評欄の「ドイツは過去と…」の記事中、強制労働補償基金の名称が「過去、記憶、未来」とされていますが、「記憶、責任、未来」の間違いでした。

鑑真和上 故国の土を踏む 十島英明

# 日中文化交流の波瀾と成功の記録 無数のエピソードの放つ天真爛漫

が、似ても似つかぬ図式的なプロパガンダ劇に交えられてしまい、舞台監督を務めた著者は、公演を終えるや即刻、上演台本を火に投じる。

この本を貫く一本の太い筋は、井上靖原作『天平の甕』の中国公演にまつわる。02年5月の国立劇場公演の成功をバネに、ついに03年10月、北京、揚州、上海での中国公演が実現する。サブタイトルは「鑑真東渡」。

「週刊ひとよし」の連載をまとめたものというが、「あちらこちらへの蛇行」ぶりに、なんともいえない味わいがある。

「週刊ひとよし」の連載をまとめたものというが、「あちらこちらへの蛇行」ぶりに、なんともいえない味わいがある。

「普通」の国にな りましよう 『C・ダグラス・ラミス著 大月書店 1200円』

各国国民には、歴史や社会状況によって、思考や行動に一定の傾向があるのは否めない。周囲の眼を気にしがちの日本人は「普通」という言葉に弱いようだ。そこでほとんどどの国は軍隊をもっている、日本も憲法を改正してフツの国になろうという呼びかけは、日本人の心性に浸透しやすい。

訂正

本紙4/25号書評欄の「ドイツは過去と…」の記事中、強制労働補償基金の名称が「過去、記憶、未来」とされていますが、「記憶、責任、未来」の間違いでした。

とあるが、眼前に展開する政治・社会変革の様相が、生き生きと伝えられ、迫真的で面白い。

ベネズエラでは変革を「ポリーバル革命」と呼んでいる。シモン・ポリーバルはホセ・マルティン・ユバ革命につながる革命思想である。国名を「ベネズエラ・ポリーバル共和国」と改称した新憲法。経済危機の克服と社会改革の進展(農業、教育、協同組合、女性の自立、医療、失業、貧困)。チャベスは社会主義をめざすと宣言。汚職と官僚主義という中南米共通の難問の下で、今後、どのような発展が展望できるか、興味深く見守りたい。

とみなされていた。だが今は……。

視座を転換させれば、何が普通で何が異常か―歴史と現実における真実がみえてくる。著者は末尾でいう。「普通の人は戦争をしません」「戦争をしないことが普通になる世界をつくらないと、人類の生存さえあやうくなります」「ぜひ、『普通の国』になりましよう」

## 短歌

## 現代の窓

評小石雅夫

東 長二(沃野)

かたはらは母色つくハウスにて基地に沿ふ道ひろく長しも 歌壇5月号「土着」

基地に沿ふ道長くともかたはらの畑つものみな今年出来よし 同

ヘリコプター冬日を受けて並びぬる戦無き世の表象となれ 同

自衛隊派遣の記事に赤線を引きおけば妻も読みはじめたり 同

『革命のベネズエラ紀行』

新藤通弘著(新日本出版社 1400円)

90年代末から、アメリカ支配の新自由主義政策に反対し、自立を求める動きが中南米諸国にひろがっている。ブラジル、アルゼンチン、ウルグアイ、ボリビア等で、選挙を通じ左翼政権、左翼中道政権が成立したが、その最初は、ベネズエラのチャベス政権である。

とあるが、眼前に展開する政治・社会変革の様相が、生き生きと伝えられ、迫真的で面白い。

ベネズエラでは変革を「ポリーバル革命」と呼んでいる。シモン・ポリーバルはホセ・マルティン・ユバ革命につながる革命思想である。国名を「ベネズエラ・ポリーバル共和国」と改称した新憲法。経済危機の克服と社会改革の進展(農業、教育、協同組合、女性の自立、医療、失業、貧困)。チャベスは社会主義をめざすと宣言。汚職と官僚主義という中南米共通の難問の下で、今後、どのような発展が展望できるか、興味深く見守りたい。



映画の

沖繩戦の「命」の記録

『ドキュメンタリー「ひめゆり」』

「これは」くなくなった者、生き残った者、それぞれ

それは「ひめゆり学徒隊」(沖縄県立第一高等女子

「ひめゆり学徒」222名は、1945年3月23

6月18日、突然の陸軍病院「解散命令」。

「ひめゆり」生存者、70代後半から80代。

「想像力欠如」を鋭く糾弾する。

「想像力欠如」を鋭く糾弾する。

自由法曹団が反対声明、自由法曹団は21日、政

自由法曹団が反対声明、自由法曹団は21日、政

自由法曹団が反対声明、自由法曹団は21日、政

新聞

「想像力」の問題ではない

日本の首相といえば、まあ、世間の最低の常識

「想像力」の問題ではない

「想像力」の問題ではない

「想像力」の問題ではない

「想像力」の問題ではない

「想像力」の問題ではない

「想像力」の問題ではない

「想像力」の問題ではない

「想像力」の問題ではない

「想像力」の問題ではない

月間マスコミ批評

憲法施行60年の節目を迎えた5月3日を中心

テレビ

憲法問題 民放は「素通り」

放送局では、TBSが5月2日、3日の「ニ



マスコミ気象台

◇イラク国内で死亡の記者100人に
◇教科書の「沖繩戦」、検定意見に抗議
◇民放連、国民投票直前



5月20日、東京・明治公園で開かれた「全国青年大集会」には、働く若者の現場からの訴えがあふれた。いま若者の非正規雇用が急増している。偽装請負、「ネットカフェ難民」などメディアも報道し始めたが、解決の方向性は示せていない。一人でも入れる労働組合、首都圏青年ユニオン書記長の河添誠さんは労働組合の力を再認識すべきだと訴える。



首都圏青年ユニオン 河添 誠さん

組合に組織すること以外、突破しようがない。民衆の運動が労働組合を再評価して、労組にお金と人を投入することが大事です。

市民団体が企業に対し面会を求めて拒否されても法的には問題ない。しかし、労組の形で団体交渉を申し込んで会わなかったら、それ自体が不当労働行為です。労組は法的なツールとしてもっと使え。

「すき家ユニオンの取り組みについては？」  
昨年7月、渋谷の2店

組合費は最低で500円、収入に応じて数百円ずつの分類をしています。それでも専従者を置く額は集められないので、「首都圏青年ユニオンを支える会」からカンパしてもらっています。

労働環境が悪くなったのは90年代半ばからですか？

日経連の「新時代の日本の経営」(95年)という報告に沿って派遣の規制緩和が進みました。

86年には派遣法が成立、99年にはその業種制限がほとんど撤廃されました。前は特定のスキルのある人だけが対象だったのが、規制緩和された。そして04年の製造業分野での解禁。これで労働環境は急速に悪化しました。長期不況のためというより政策的に作られたものです。

大企業の大規模なリストラ

企業側はそれでもいいのでしょうか。  
産業構造が変わり海外の安い賃金に抵抗するところを乗り越えなければ競争に打ち勝てないというので、日本でも賃金を低下させ

って大規模なリストラも起っています。一番問題なのは暮らせないことです。収入が安定していませんが、その取引関係が切れば、派遣労働者の雇用は事実上切れてしまふ。非常に細切れの雇用になる。賃金も上がりにくいしスキルの形成も難しい。

賃金水準の低い現場は労働条件も悪い。労基法がほとんど守られず、深夜割増などもない。そうした職場で働く人を青年ユニオンは組織しているのです。

大きな企業ほど労働組合は組織され、正社員ほど組織されています。より劣悪な労働条件の人ほど組織されていない。一番労組を必要としている人たちが組織化される運動が必要です。

いま労働組合組織率は全体で18%。では残りの82%の人は関係ないだろうか。いま労働基準法以下の雇用が拡大している背景には、明らかに企業の雇い手がある。それに人気があつたのもそこにある。

その後、すき家では1万人以上のアルバイトに残業代の割増し分が法律通り払われていないことがわかった。交渉して見たものを書くことはできないのかな。記者も忙しいでしょうけど。

調査して書いた記事が期待したいですね。紹介された人に会うだけでなく、しばらく一緒に同行して見たものを書くことはできないのかな。記者も忙しいでしょうけど。

小さな組合でいい運動をしているところはたくさんありますよ。

労働法制を変えようという方向も心配です。貧困の拡大は労働環境の劣悪化から起こっています。劣悪化にブレーキをかけるには国の法律と労働組合しかない。そこを運動側が位置付けなければ。

労働法制は規制緩和の方向に向っている。偽装請負も合法化する方向が出てくる。それにブレーキをかけるのは全社会的な問題です。労働組合の世界だけの話ではありません。

# 規制緩和が進める細切れ雇用 賃下げ、深夜割増ない現場も 人をモノ扱いの「すき家」に怒り

ある企業の労働者が一人で組合に入っても交渉ができる、ということも知られています。

組合を作るのは容易ではありません。でも組合に入って交渉することは可能です。労働組合の力をメディアは報道してほしい。

労働者の権利や、最近貧困が広がっていると悪が一般の人たちの働き方に影響を与えることをもっと書いてほしい。

政局記事が多い。それが必要ですが、それだけでは実態は見えない。

労働の現場で何が起っているのかをもっと取材して、労働法制の規制緩和が国会で通ればどうなるのかを記事にしてほしい。読者としてそういう記事を読みたいと思います。

労働の現場で何が起っているのかをもっと取材して、労働法制の規制緩和が国会で通ればどうなるのかを記事にしてほしい。読者としてそういう記事を読みたいと思います。

労働の現場で何が起っているのかをもっと取材して、労働法制の規制緩和が国会で通ればどうなるのかを記事にしてほしい。読者としてそういう記事を読みたいと思います。

労働の現場で何が起っているのかをもっと取材して、労働法制の規制緩和が国会で通ればどうなるのかを記事にしてほしい。読者としてそういう記事を読みたいと思います。

労働の現場で何が起っているのかをもっと取材して、労働法制の規制緩和が国会で通ればどうなるのかを記事にしてほしい。読者としてそういう記事を読みたいと思います。

労働の現場で何が起っているのかをもっと取材して、労働法制の規制緩和が国会で通ればどうなるのかを記事にしてほしい。読者としてそういう記事を読みたいと思います。

労働の現場で何が起っているのかをもっと取材して、労働法制の規制緩和が国会で通ればどうなるのかを記事にしてほしい。読者としてそういう記事を読みたいと思います。

## 私のお気に入り

父がのこした「宝」  
貴重な戦中のメディア



15年前のこと、同居していたカミさんの父親が他界して、その身辺整理をしていたら、額縁入り表彰状の下から、昭和6年11月13日から15日付までの「東京朝日新聞」と「横濱貿易新報」が出てきました。

私にとって「宝」。昭和9年生まれの私です。捨てるなんてできない。セロフィルムで覆って大切にしています。

もう一つは、横浜大空襲時、防空壕に埋めて難を逃れた「写真」。幼稚園児たちの「戦勝行列」(写真)や小学校校庭での仮装行列「銃後はこれだー国民大行進」など数枚。平和のための戦争展などで、これも公開されています。現物だから、電子メディアができないワザを、これらの新聞と写真が見せてくれます。

長谷川径弘(神奈川支部)

ドイツの二つの戦後処理を知る旅「記憶の碑ー和解の関係者たち」  
5月上旬、ドイツ文化センター(ゲテ財団)が日本のジャーナリストを招き、標記の報告を行った。

これに参加したジャーナリスト・学者からの報告を聞き、主催者と企画者の佐藤健生氏から、ドイツの経験をもとにアジアに生かす可能性について語ってもらう。

司会 伊藤力司(JCJ、元共同通信外信部)  
\*交渉中  
パネリスト 菅原秀(JCJ)、岸俊光(毎日新聞学芸部)、内海愛子(東京女学園大学名誉教授)、

小田健(日本経済新聞論説委員) \*交渉中、水島宏明(日本テレビ報道局解説委員) \*交渉中  
助言者 Dr. ウーヴェ・シュメルター(ドイツ文化センター所長) マルクス・ヴェルンハルト(ドイツ文化センター文化部長、佐藤健生(拓殖大学教授))

【日時】5月30日(水)午後6時  
【場所】岩波セミナーロム  
【会費】千円(学生500円) 事前予約不要。  
終了後に懇親会。

訂正  
4月号1面コミックJCJのタイトルは「独裁者の影」でした。

小田健(日本経済新聞論説委員) \*交渉中、水島宏明(日本テレビ報道局解説委員) \*交渉中  
助言者 Dr. ウーヴェ・シュメルター(ドイツ文化センター所長) マルクス・ヴェルンハルト(ドイツ文化センター文化部長、佐藤健生(拓殖大学教授))

【日時】5月30日(水)午後6時  
【場所】岩波セミナーロム  
【会費】千円(学生500円) 事前予約不要。  
終了後に懇親会。

訂正  
4月号1面コミックJCJのタイトルは「独裁者の影」でした。